



こんにちは。中堀明美です。
 2月から3月にかけて、日本では「受験シーズン」を迎えます。
 未来に向かって一歩を踏み出す大切な時期です。息子が受験した頃を
 思い返すと、受験する本人が一番大変そうではありましたが、
 実は…一番落ち着いていなかったのは、私だったように思います。
 心配でソワソワして、何もしてあげられないことがもどかしくて。きっと、同じ気持ちを経験された
 親御さんも多いのではないのでしょうか？

今では当たり前前の受験は、いつからあるの？

必勝

はじまりは古代

日本で「試験」が行われるようになったのは、今から約1300年前。
 飛鳥・奈良時代、中国から伝わった考え方をもとに、役人を選ぶための試験が
 行われました。当時は、漢字や儒教(人として正しく、思いやりをもって生きるための
 教え)の知識を学び、国の仕事をする人を決めていました。

武士の時代は受験なし？

鎌倉時代から室町時代にかけては、武士が活躍する時代。
 このころは、試験よりも「戦での手柄」や「家柄」が重視され、
 受験はほとんど行われなくなりました。

江戸時代、勉強が大切に

平和な世の中になると、学問が再び重視されます。
 武士の子どもは藩校で学び、町の子もたちも寺子屋で読み書きを習いました。
 「勉強すれば、できることが増える」という考えが広がった時代です。

明治時代、今の受験が誕生

学校制度が整えられ、入学試験が始まりました。
 成績によって進学先が決まり、今の受験の形ができあがります。

現代の受験へ

テストの点数だけでなく、内申点や面接なども大切にされています。
 受験は、「知識を覚えるだけのもの」から、
 自分の力を知り、未来を考える場へと少しずつ姿を
 変えてきているのかもしれない。

自分自身が受験に向き合っていた、あの頃の気持ちを思い出しました。今は親となり、その背中を静かに
 に見守る立場になりました。受験生を支える親御さん、そしてお孫さんを思う皆さまが、変わらぬ日常の
 中で「大丈夫だよ」と心に寄せる願いは、きっと力になります。口に出さずとも踏ん張る力は、誰の中にも
 ある。それを信じ、そっと寄り添うその想いこそが、日本の心、大和魂なのかもしれませんね。



経営理念

有限会社大名は「届けますっ!大和魂」を合言葉に
 日本の歴史、古美術を発信し、貴方(お客様)の
 趣味を応援するタイムマシーン企業を目指します



明けましておめでとうございます。花本隆資です。
 私の今年の一字は「歩」です。
 去年は小さな一歩から始まりましたが、自分にとっては想像以上に
 大きな一歩となり、走り続ける一年でした。
 今年は少し落ち着きながらも、着実に歩を進める一年にしたいと
 考えています。
 また、仕事に集中していた分、今年はいくぶん気分転換として
 山歩き(ゴルフ)も楽しみたいと思います。
 本年もどうぞよろしくお願いいたします

明けましておめでとうございます。中堀明美です。今年の一字は「築」です。
 自分自身の成長や新たな挑戦を一つひとつ積み重ね、確かなものを築き上げる
 一年にしたいです。また、一緒に働く仲間とのチームワークを大切にしながら、
 お客様とも信頼関係を築いていきたいと思っています。
 私生活では、時間や家事に追われて気持ちに余裕を失うこともありますが、
 心の豊かさを築くことを意識し、穏やかに過ごしていきたいです。
 2026年を振り返った時に、「この一年で多くのものを築くことができた!!」
 と思えるよう、毎日大切に過ごしたいと思います。
 本年もどうぞよろしくお願いいたします。



あけましておめでとうございます。
 島谷貴子です。今年の一字は「息」です。
 一息入れて、仲間に伝える言葉は間違っていないか?
 一息入れて、お客様に喜んでいただける言葉はこれで間違っていないか?
 慌ただしい毎日に追われ、自分の大切なコトやモノを見失わないよう、
 そして、平和な一年に出来るように一息入れながら過ごしていきたいと
 思います。
 本年もどうぞよろしくお願いいたします。

お年玉プレゼント

弊社のお客様が過去に当選された賞品

同封の応募用紙に以下の項目全てご記入の上、Fax・メール・はがきにてご応募下さい。

- 1 ケイズの答え
- 2 大和魂の正直な感想(酷評歓迎)
- 3 大名・大和魂へのご要望

※当選された方は写真を掲載させて頂きますのでご了承下さい。

今年はおなたに当たるかも!?

今号の大和魂はいかがでしたか? 皆様のご意見・ご感想どしどしお寄せください。お待ちしております。 件名: ニュースレター返信と入力して送信して下さい。



日本の歴史に

タイムスリップ! in 西藤小学校

Part3

こんにちは! ハナエモンこと花本隆資です。先日、広島県尾道市内の西藤小学校で6年生の子供達に歴史の授業をさせて頂きました。今回で3回目の来校となりました。



今まで同様、1時間目は会社紹介と鎧・日本刀についてお話しさせて頂きました。

鎧・日本刀の説明を終えると、早速、実際に鎧・兜・日本刀・火縄銃に触れてもらいました。



レプリカの兜を被るコーナーでは恒例の行列になり、生徒たちと一緒に先生にも被って頂きました。

刀が入った拵を実際に両手で持たせてあげると

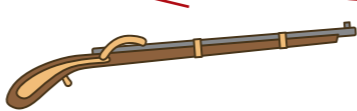
大はしゃぎ! そして火縄銃を手にして、

「これも、すごい重いんじゃないけど!」

火縄銃のからくり音が鳴ることに **「まち、カッコイイ!」**と目を輝

かせながら、触れている姿をみていると、こちらもとても嬉しくなりました。

「重っ!」
「カッコイイ!」



大盛り上がりの歴史クイズでは、授業で話させてもらった内容もしっかりと答えられ、伝わっていたことに、とても感激しました。残った10名の生徒たち

へ、家紋入りの手拭いや大名オリジナル商品をプレゼントすると、とても喜んでいました。



先生より

歴史の授業を子どもたちに楽しく伝えることがとても難しく悩んでいたのですが、実際にモノに触れて感じる事が出来、歴史に興味を持つきっかけになる授業をして頂きありがとうございます。来年もどうぞ宜しくお願い致します。

とお言葉をいただきました。

沢山の生徒たちが手を挙げて、意見や感想を話してくれたので、とても楽しい授業となり、充実した時間となりました。

何の為にこの仕事をしているのだろうか? そんな事を考えた約10年前。

いつか子供達に日本の歴史に興味を持ってもらう、好きになってもらう“きっかけ”になる歴史の授業が出来たら嬉しいなと思っていました。

先生からいただいた言葉を忘れずに、今後も色々な小学校で、日本の素晴らしい文化に触れることのできる授業をしていけたらと思います。



こんにちは、島谷貴子です。

今号では小学校訪問で、子どもたちが目を輝かせていた火縄銃について語らせていただきます。

いつから?

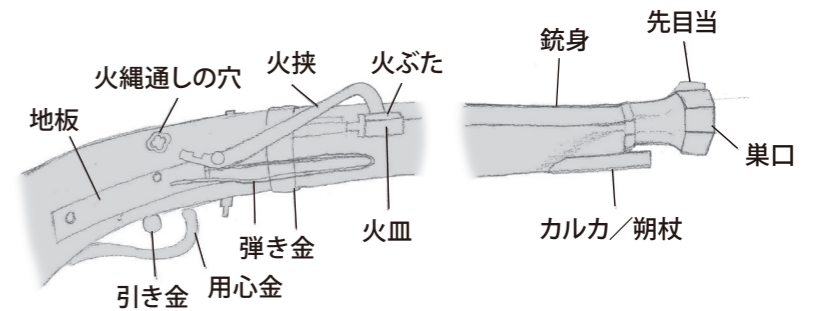
1543年、種子島(鹿児島県)に中国からの商船が流れ着いたことで日本に鉄砲がもたらされたといわれています。この商船には、2人のポルトガル人が乗っており、種子島の領主であった「種子島時尙」は、漂着したポルトガル人を丁重にもてなし、2挺の火縄銃を大金で購入しました。

購入した火縄銃の1挺を種子島の刀匠に貸し出して複製するように命じ、八板金兵衛が火縄銃の複製に成功しています。残りの1挺は、薩摩藩主「島津義久」に贈られ、そのまま室町幕府12代将軍「足利義晴」に献上されました。将軍の複製命に近江国友の職人が応え、半年で複製に成功したといわれています。

火縄銃は何から出来ている??

- 火縄通しの穴: 火種である火縄を通す穴
- 銃身: 弾が通る筒に弾(鉛玉)を入れる
- 火皿: 点火用の火薬を置く
- 火ぶた: 火皿を閉じるふた
- 火挟: 通し穴に通した火縄の先を挟む器具
- カルカ/朔杖: 銃身に弾丸と火薬を詰めるときに使う棒
- 引き金: 引くと火縄が下り、火皿に点火
- 銃床: 肩に当てる木部
- 前目当/先目当: 照準を合わせる時に使う

火縄銃は、銃身と銃床、点火装置部分であるカラクリの3部分から構成され、引き金を引く→火縄が火皿に触れる→火薬が爆発→銃身内の弾が発射となります。



初めて使用されたのは???

その後、日本各地に国産の火縄銃が広がり、実践で初めて使用されたのは1549年、薩摩で起こった「黒川崎の戦い」だとされています。

次に1550年の「第2次川中島の戦い」に、鉄砲300挺が使用されたといわれています。しかし実戦では、長槍や弓といった武器が主力で、鉄砲はまだ発射音による馬への威嚇など、補助的な形でしか使われていなかったそうです。

武器として使用されたのは???

本格的に武器として火縄銃が使用されるようになったのは、「長篠の戦い」とされています。

織田&徳川連合軍VS武田軍で、織田軍が数千挺規模の火縄銃を組織的に配備し、日本で初めて火器を主力とした組織戦術が成功したといわれています。

組織戦略とは、交代で発射して連続射撃に見せる戦術。威嚇から武器へと変化をし、そこで主要な戦力となったのは足軽でした。命中精度よりも騎馬兵など敵軍の進行を遅らせることに重点が置かれていたため、熟練の技と経験が必要な刀剣や弓、長槍とは違い、火縄銃は戦闘経験のない雇われた兵士も、すぐに使える武器であり、速さと命中率を維持することができていました。

当時の火縄銃の有効射程距離は100m以内で、厚さ3cmの板を打ち抜けたといわれています。

さらに50m圏内であれば甲冑を貫通するほどの威力があったといわれています。

武士で構成された鉄砲部隊である「鉄砲衆」などの熟練した射撃手なら、8~9割の確率で命中させられたのです。乱戦時であっても2~3割の命中率を維持していたとされ、火縄銃に対応するため、機動性と防御性を兼ね備えた「当世具足」がこの頃に発案されたといわれています。

形を変えながら

標準的な火縄銃は130cmほどの長さですが、この他に、船上や城での戦闘を想定した「狭間筒」、馬に乗りながら片手で撃てる接近戦用の「馬上筒」、懐に隠し持てる護身の「短筒」、威力が大きい「大鉄砲」など、製造技術を学んだ職人が、戦の場面に合わせて様々な形態の火縄銃を開発していきました。が、平和になった江戸時代には、需要が減り、技術革新や改良をされることはなくなっていきました。

武器そのものよりも、それを自国の文化と戦い方に合わせて作り変えた職人の力にあります。戦い方が変われば、武器も変わる。使う人が変われば、形も変わる。職人がより良い形を追い求め続ける姿勢こそが、現在の日本のモノ作りを根底から支えているのだと思います。